

市政一般質問

DIGEST

3月定例会では16名の議員が質問を行いました。
主な質疑の内容をご紹介します。



防犯・防災

消防団訓練施設の 早期実現を望む

里脇 清隆 議員

Q 昨年9月議会でも取り上げたが、消防団は消防署のお手伝的な立場ではなく、署と同様に火災時の出動消火作業のために訓練を行っており、日頃の活動の中でも、実際に放水訓練を行う必要がある。専用の訓練場整備に市長も理解を示されているが、早急な整備が望まれており、具体的な建設の時期を示していただきたい。

A 消防団は消防署と一体であり、市内15分団は訓練につき訓練を行い頭が下がる思いである。4、5年前から要望もあっており、消防団の熱意も承知している。消防団員の技術のレベルアップを図ることも重要であり、25年度中に場所を特定し、26年度には整備に取り組めるよう予算化に向けて踏み出したい。

平成25年度の 総合防災訓練について

三浦 正司 議員

Q 平成25年度総合防災訓練の実施の有無、実施するとすれば予算書における位置付け、これまでの事業評価とその意義、及び4年に1度の総合防災訓練が2年に1度になった経緯の説明を求める。

A 9月に第6回目の総合防災訓練を実施する予定である。予算書には、地域防災推進事業として130万円を計上している。事業評価としては、回を重ねることに市民の参加がふえ、防災意識の高揚に大いに寄与しているとの判断をしている。実施の周期については、訓練の重要度を考慮し、関係機関と協議した結果、平成23年度から2年ごとに実施することとなった。

軽化学消防ポンプ車配備を つぎやるの まじょう

園田 裕史 議員

Q 12月議会において、具体的な中小企業振興策として、本市のナカムラ消防化学で開発された世界初の軽化学消防ポンプ車を配備することを提案したところ、早速、新

年度予算に計画されたことは最大級に評価する。購入と配備に当たっては、障がい者雇用の促進、市内の技術力を結集し商工業の連携、企業観光光等へ結びつけ、大村市から全国そして世界へ発信していくことを提案する。

A 市内消防団15分団において、具体的にどの分団へ配備するかは現在検討中であるが、狭い道路も容易に通行することができ、機動性を考慮した適切な配備を行いたい。

学校防災施設等 整備について

村上 秀明 議員

Q 新年度の新規事業として、災害支援用備蓄施設等整備事業が危機管理課の事業として計上してあるが、具体的な内容の説明を。この施設を市内に何力所配置する計画なのか。市内すべての小中学校が避難場所に設定されているのであれば、学校敷地内や学校隣接地に計画することはできないのか。

A 市の指定避難所は48力所あるが、備蓄拠点施設としては、現在、消防署裏の倉庫1力所しかない。そこで、高台の方に備蓄拠点施設を1力所整備し、そこから